

平成 29 年度経済学部学生チャレンジプロジェクト事業成果報告書 『カマタマーレ讃岐との共同イベント』

代表 武村 昂紀（経営システム学科 4 年生）

（1） 目的と概要

【目的】

プロジェクトの目的は大きく 2 つあります。1 つ目は、プロジェクトメンバーが中心となり、香川県庁や高松市役所、他大学の教職員・学生、県内の高校の教職員・生徒等と連携して、カマタマーレ讃岐の観客動員数増加に寄与する事です。2 つ目は、様々な人間関係の中で、社会人になった際に求められる力を多面的に磨く事です。

【概要】

プロジェクトでは、カマタマーレ讃岐のホームゲームの際に、丸亀市の Pikara スタジアム（丸亀競技場）で、3,000 名以上のお客様を対象とする大規模なイベントの企画・運営を行っています。本年度は、8 月 5 日に「高松市ホームタウンデー2017」と 11 月 5 日に「かまたまつり 2017」の 2 つのイベントを行いました。また、イベントの企画・運営以外にも、7 月 15 日に J リーグが実施するアンケート調査のお手伝いをしたり、10 月 1 日に運営ボランティアに参加したりしました。

（2） 実施期間

平成 29 年 5 月 1 日から平成 30 年 3 月 15 日まで

（3） 成果の内容

1. このプロジェクトの具体的な成果

【高松市ホームタウンデー2017】

高松市民でカマタマーレ讃岐を応援する日として、Pikara スタジアムで開催された「高松市ホームタウンデー2017」では、カマタマーレ讃岐をはじめ、高松市役所や大川バス、高松商業高校、坂出商業高校等と協働して、集客イベントを企画・運営しました。イベントの約 3 か月前から、カマタマーレ讃岐や高松市役所、大川バスの方々と週 1 回の企画会議と毎日の学生会議を行い、毎年恒例となっている無料観戦体験バスツアーやフェイスペイント、BOX オブジェ&フォトプロップスに加えて、新企画としてレジニアクセサリー作り体験及びピッチ内イベントを企画しました

（図 1） レジニアクセサリー作り体験の様子



まず、レジニアクセサリー作り体験では、「レジン」という合成樹脂や UV ライト等を用いて、

お客様に試合観戦の記念になるオリジナルアクセサリーを作って頂きました。レジンを用いたものづくり体験は、今回が初めての試みであったため、様々な種類のレジン液を試したり、UVライトの照射時間を調整したりする等、約1か月の間、短い制作時間でお客様に満足して頂けるように試行錯誤を重ねました。イベント当日には、目新しいイベントに多くの方が興味を持ってくださり、家族連れを中心に82名のお客様に楽しんで頂く事ができました。

次に、ピッチ内イベントでは、無料観戦体験バスツアーに参加されたお客様を対象に、カマタマーレ讃岐の選手が実際に試合を行うピッチの中で、選手入場体験やオフサイドとスローイン、PKのルール説明、ドリブル体験等を楽しんで頂きました。これまで、ピッチ内イベントは、ピッチの管理や安全面等を考慮して規制されていましたが、カマタマーレ讃岐や高松市役所の方々との約1か月に亘る交渉や打ち合わせの結果、これまでのイベントで培ってきた経験や成果を認めて

(図2) ピッチ内イベントの様子



くださり、芝生が剥がれるような激しい運動をしない事を条件にピッチ内イベントが開催される事となりました。当日参加されたお客様からは、「ピッチに立つと気持ちが高まる」や「PKを蹴る位置が遠くて驚いた」等の言葉を頂き、普段は入る事のできないピッチでのイベントに満足感や新鮮味を感じて頂く事ができました。

他にも、毎年恒例となったフェイスペイントでは、2017年7月に誕生したカマタマーレ讃岐のマスコットキャラクター「さぬびー」のイラストを新たに追加したところ、多くの方からリクエストがあり、お客様から大変ご好評を頂きました。

※「高松市ホームタウンデー2017」を行った試合では、2,000名のお客様を動員しました。また、無料観戦体験バスツアーには32名、フェイスペイントには132名、BOXオブジェ&フォトプロップスには30名のお客様にお越し頂きました。

【かまたまつり 2017】

11月5日には、カマタマーレ讃岐をはじめ、香川県庁や株式会社レアスウィート、高松大学発達科学部、高松商業高校、坂出商業高校等と協働して、「かまたまつり 2017」を開催しました。イベントの約3か月前から、カマタマーレ讃岐や香川県庁、株式会社レアスウィート等と週1回の企画会議と毎日の学生会議を行い、フェイスペイントやBOXオブジェ&フォトプロップス、オリジナルビーズファクトリー、フットアクティビティの4つのブース運営に加えて、会場一体型イベント「カマタマジェット風船大作戦」を企画しました。

まず、BOXオブジェ&フォトプロップスでは、株式会社レアスウィートにご協力頂き、香川県の特産品である希少糖を含有したシロップ「レアシュガースウィート」を模したプロップスを作成しました。イベント当日には、そのプロップスを使って写真を撮って頂いたお客様に「レアシュガースウィート」の試供品を、そして、その写真をSNSに投稿して頂いた方に「レアシュガースウィート」の500mlのボトルをプレゼントしたところ、150名のお客様に楽しんで頂

く事ができ、県外から来たアウェーチームのサポーターにも香川県の特産品をPRする事ができました。

次に、カマタマジェット風船大作戦では、会場の一体感を醸成するために、7,000本のジェット風船をお客様に配布し、試合のハーフタイムには、そのジェット風船を使ったダンスをカマタマーレ讃岐の公認応援歌に合わせて踊り、音楽の最後には一斉にジェット風船を飛ばす事で、スタジアムをカマタマブルーに染め上げました。このイベントを提案した際には、ジェット風船がピッチ内に入ってしまい、試合の進行を妨げる恐れがある事や後片付けの問題等があったため、ジェット風船を何度も飛ばして飛距離を測ったり、ジェット風船が1つも残らないような清掃の陣形を考え、担当を割り振ったりする等、カマタマーレ讃岐の方々と入念な打ち合わせを重ねました。また、ダンスには、昨年同様、高松大学発達科学部や高松商業高校、坂出商業高校の学生・生徒にも参加して頂き、イベントの約1か月前から毎週、香川大学のプロジェクトメンバーが各学校に赴き、練習を行いました。イベント当日には、特にトラブルもなく、お客様からは、「是非、来年もやって欲しい」や「すごく楽しかった」等と満足の声を頂きました。

(図3) カマタマジェット風船大作戦の様子



※「かまたまつり 2017」を行った試合では、3,977名のお客様を動員しました。また、フェイスペイントには229名、オリジナルビーズファクトリーには196名、フットアクティビティブースには131名のお客様にお越し頂きました。

【上記以外の活動】

上記の「高松市ホームタウンデー2017」と「かまたまつり 2017」のイベント以外では、主に2つの活動を行いました。

まず、1つ目は、Jリーグが実施するアンケート調査のお手伝いです。こちらのアンケートは、Jリーグから依頼を受け、カマタマーレ讃岐のホームゲーム観戦者の調査を目的に7月15日に行われました。私たちは、過去3年間に亘って、アンケート調査をお手伝いしており、その実績や様子等を評価され、今シーズンも他大学や他団体ではなく、引き続き私たちにお願ひしたいという強い要望を受けました。このアンケート調査を通して、お客様のスタジアムまでのアクセス方法や試合前の時間の過ごし方等、今後のイベントに活かせる有益な情報を得られました。

次に、2つ目は、カマタマーレ讃岐のホームゲームの運営ボランティアの参加です。花形のイベント運営とは異なり、清掃やチケットもぎり等の裏方の仕事を体験する事で、普段目にする機会が少ない表舞台を支える仕事の大変さを知り、イベント時にいつもご協力頂いているカマタマーレ讃岐のスタッフの方々や運営ボランティアスタッフの方々との繋がりを深める事ができました。

2. このプロジェクトが大学や地域社会の活性化、学業の振興等に対してもたらした影響あるいは効果

このプロジェクトが大学や地域社会の活性化、学業の振興等に対してもたらした影響や効果は大きく2つあります。

まず、1つ目は、香川大学経済学部の学生として私たちが行う活動を広く認知して頂いた事です。「かまたまつり 2017」では、四国新聞や読売新聞からメディア会議の様子を取り上げられたり、FM 香川でプロジェクト紹介を行ったりした事で、沢山の皆さんに香川大学経済学部の活動を知って頂く事ができました。また、イベントの運営に携わって頂いた高松商業高校や坂出商業高校の生徒には、香川大学経済学部の学生と共に活動する事で、香川大学経済学部に興味を持ってもらう事ができたと考えています。実際に、イベントにスタッフとして参加してくれた坂出商業高校の生徒が本学の推薦入試を受け、合格したと聞いております。

(図4) メディア会議の様子



次に、2つ目は、産官学民一体型イベントを行う事で、地域の連携を強め、地域活性化に寄与した事です。私たちは、行政や地元企業の方々と一緒にイベントの企画・運営を行っています。「かまたまつり 2017」を行った試合では、株式会社レアスウィートと協働して、BOX オブジェ&フォトプロップスブースで香川県の特産品をPRしたり、高松大学発達科学部や高松商業高校、坂出商業高校等と共に、カマタマジェット風船大作戦を行ったりしました。このように、行政や地元企業、大学、高校等と協働してイベントを企画・運営する事で、地域の連携を強め、地域活性化に寄与できたと考えています。

(4) プロジェクトから学んだ事

私たちが、今回のプロジェクトを実施した上で気が付いた課題は、大きく2つあります。

まず、1つ目は、今回新しく行ったイベントをブラッシュアップし、より多くのお客様に満足して頂けるように改善する事です。今年度は、ピッチ内イベントやカマタマジェット風船大作戦等、新しい企画を沢山行ってきました。特に、カマタマレ讃岐との共同イベントを始めて以来、初めての試みとなったピッチ内イベントでは、多くのお客様に参加して満足の声を頂いたものの、スタッフがお客様からの質問に答える事ができなかったり、水分補給の時間を十分確保できていなかったりと、事前準備やお客様に対する配慮が万全ではありませんでした。来年度は、今回明らかになった反省点やお客様に答えて頂いたアンケートの結果等を参考にし、よりお客様に満足して頂けるよう、企画・運営していきたいと思っております。

次に、2つ目は、企画を考案する主力メンバーが不足している事です。私たちのイベントは、今年で5年目を迎え、メディアでの露出が増えている事や無料観戦体験バスツアーで行っているアンケート調査の結果等から、イベントに対するお客様の期待や認知度が以前よりも大きくなっていると感じています。今後、より多くのお客様に満足して頂くためには、より魅力的なイベントを考案し、実施する必要があります。しかし、「かまたまつり 2017」に参加したスタッフ 56名のうち、初参加のスタッフが7割以上を占めており、中心になって企画を考案・運営

するメンバーが不足しているため、より多くのアイデアを提案し、質の高いイベントを運営する事が難しくなっています。この人材不足を解消するためには、継続的にイベントに参加するスタッフを増やし、育てていく必要があると思っています。具体的には、イベントスタッフとして参加してくれた学生や高校生にも、試合運営ボランティア及びアンケート調査の募集を掛けたり、全スタッフでイベントの反省会を行ったりする等、当日のイベント運営以外で関わる機会を増やす必要があると思います。そうする事で、スタッフの積極性や責任感が養われるだけでなく、これまでとは違う視点を得られ、より発展したイベントを運営できるのではないかと考えています。

(5) 実施メンバー

代表	経済学部 4年	武村 昂紀
	経済学部 4年	大塩 宝
	経済学部 2年	島村 祐風海
	経済学部 2年	益 穂菜美
	経済学部 2年	松並 有紗